



目的や活動内容などを発表した遠野緑峰高生徒

遠野緑峰高「校内プロジェクト発表会」 3月5日

## 研究成果を発表し、意欲新たに

研究活動の成果を共有し、学びの意欲を高める同発表会が市民センターで開かれました。遠野緑峰高生産技術科と情報処理科の全7班が「鳥獣被害対策」SNSを活用した遠野産品の周知「郷土料理の継承」などの研究を発表。「緑峰リンゴから広がる新たな輪」と題し発表した佐藤光さん(現3年)は「乳酸菌入りリンゴの安定栽培を実現し、新たな名物として定着させたい」と目標を語りました。



遠野消防署に配備された最新型救急車「C-CABIN」

高規格救急自動車配置式 3月11日

## 県内初、最新型救急車が配備

配置式が市総合防災センターで行われ、高規格救急自動車1台が遠野消防署に配備されました。車両は、福島県国見町から無償譲渡を受けたもの。電動ストレッチャーの導入「揺れが少ない車体」広い活動空間などが特徴で救命活動の安全性が向上しています。遠野消防署の奥寺勝署長は「救急車の機能と隊員の技術を生かし、市民の安心・安全の確保に尽力する」と決意を述べました。



追悼サイレンに合わせ黙とうを行った遠野第3区自治会の会員

東日本大震災から13年 3月11日

## 鎮魂や復興の思いを込め追悼

平成23(2011)年に発生した東日本大震災から13年。追悼のサイレンに合わせ、市内各地で黙とうがささげられました。遠野町第3区自治会は穀町西公園で追悼集会を開催。地域住民ら約40人が参加し、鎮魂や復興の思いなどを込めました。菊池幸吉さん(東穀町)は「災害はいつやってくるか分からない。震災の記憶を風化させず、災害時の対応や体制をみんなで確認したい」と決意を新たにしました。



多田市長と100歳を祝う鈴木さん

自宅で長寿をお祝い(3月2日生まれ) 3月13日

## 綾織町の鈴木キヨさん100歳

鈴木さんの100歳のお祝いは自宅で開かれ、多田市長と家族が長寿を祝福しました。長生きの秘訣を伺うと「山菜をたくさん食べることです」とにっこり。大正13年に小国村(宮古市)に生まれた鈴木さんは、23歳で盛雄さん(故人)と結婚。畑仕事と林業を営みながら4人の子育てを育て上げました。現在は孫7人、ひ孫8人、やしゃご3人に恵まれ、自宅で穏やかに過ごしています。

2月21日 新しい『遠野物語』を創るプロジェクト発表会

## 地域と協働の探求成果を発表

遠野高(伊藤正則校長、300人)の1・2年生が市内団体・企業と一緒に探究した成果を披露する発表会は、同校の第一体育館で開かれました。サッカーの普及推進や市内在住の外国人調査など11のテーマを発表。SNSを活用して遠野の魅力発信に取り組んだ広報班・糠森政宗さん(現3年)は「活動を通じて自分も遠野を知ることができ、また市外の人へのPRにもつながったと思う」と振り返りました。



発表後はたくさんの質疑応答があり、互いに学びを深めた

2月23日 遠野市防災ミーティング

## 後方支援活動の教訓を石川へ

防災ミーティングはあえりあ遠野で開かれ、石川県から視察団16人が来遠。東日本大震災時に活動した本市職員やNPO法人から後方支援活動の教訓を学びました。会社を経営する森山明能さん(同県七尾市)は「能登は物資も人手も足りない。七尾が遠野のように被災地支援できる仕組みづくりをしたい」と思いを語りました。遠野市は能登町に職員派遣を継続中。今後も石川県の復興を支えていきます。



石川県内の被災状況について説明する森山さん

2月28日 令和6年度自衛隊入隊予定者市長表敬訪問

## 命を救う自衛官を目指して

自衛隊入隊予定者の激励会が市役所とびあ庁舎で開かれ、4月から入隊する3人と関係者が出席。多田市長から激励の言葉と遠野市自衛隊協力会から記念品が贈られました。入隊予定者は、写真左から藤川仁さん(小友町)、菊池紗樺さん(同)、菊池駿斗さん(附馬牛町)。岩手駐屯地に着任予定の菊池駿斗さんは「災害発生時、1人でも多くの命を救える自衛官になりたい」と決意を述べました。



国民の命を救う決意をした入隊予定者の3人

3月4日 令和5年度「遠野文化遺産セッション」

## 文化遺産の未来を考える

同セッションがあえりあ遠野交流ホールで開かれ、市民ら約70人が参加しました。佐々木大輔さん(Tales&Tokens(株)代表取締役)が「文化遺産を守るための思考法」と題し講演。「遺産が遺産であるためには常に創造が必要だ」と強調しました。及川千恵子さん(松崎町)は「まずは自分たちが身近な文化財の価値や歴史を知り、次の世代に伝えていきたい」と思いを語りました。



遺産の継承には創造が必要と説明する佐々木さん